

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31 - 23	中学校	社会	社会 (地理的分野)	1 - 2年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	地理 704	中学社会 地理的分野		

1. 編修の基本方針

「新しい時代を担う主権者を育てる」を基本理念とし、

18歳選挙権をみすえて、生徒が「社会的な見方・考え方」を働かせた学習を通して「主体的・対話的で深い学び」を実現し、新しい時代の国家・社会の形成者として必要な「公民としての資質・能力の基礎」を育成することを願い、本教科書を編修しました。

本教科書は、教育基本法第2条の教育の目標を達成し、この基本理念を実現するために、以下の三つを編修の基本方針とし、編修にあたりました。

基本方針

1

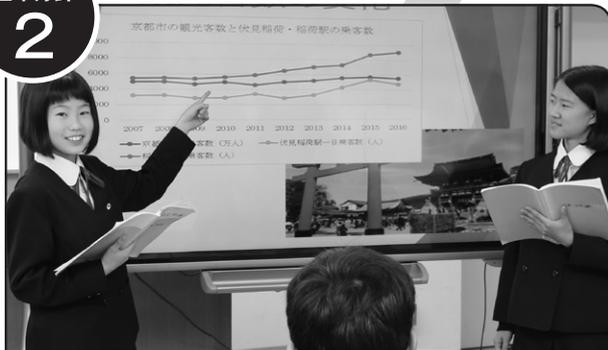


質の高い学びや授業を保證する

確実な知識・技能の定着

基本方針

2



生徒自らが学びに動き出す

主体的・対話的で深い学びを通じた
思考力・判断力・表現力の育成

基本方針

3

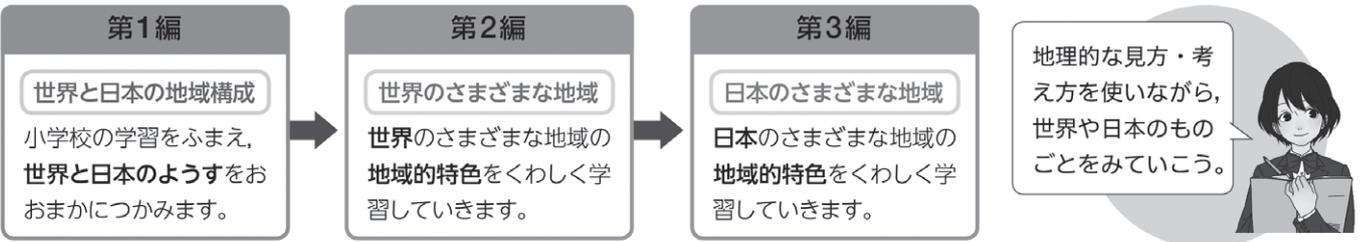


学びを日々の生活や
社会に活かす

学びに向かう力・人間性を養う

▶教科書全体の学習を通して「何ができるようになるか」という資質・能力を明らかにして構成しました。生徒が地理的な見方・考え方を働かせながら日本や世界の諸事象をとらえることができるよう編修しています。

地理の導入単元である第1編で、地域の諸事象や地域的特色を理解する際の基準となる視点を養い、これを生かして第2編・第3編で世界及び日本の諸地域の地域的特色について学習を進める構成としています。世界や日本に関する基礎的・基本的な知識や地理的技能を確実に身につけ、地理的な見方・考え方を働かせながら日本や世界の諸事象をとらえることができる教科書にしました。



▶基礎・基本を大切に、「何を学び」「どのように学ぶのか」のポイントをおさえた紙面構成で、生徒が知識・技能を着実に身につけることができるよう編修しています。

本文は原則1授業時間を見開き2ページとし、この1時間で何を学ぶのか、どのようなことに着目して学習を進めるのかを、「学習課題」「見方・考え方」で明確に示しました。また、「見方・考え方」を働かせながら考える問いである「深めよう」を示したほか、右ページの側注欄には学習課題に対応した「確認」コーナーを設け、基礎的な知識・技能の確実な定着を企図した学習活動を提示しました。

本文ページの使い方

導入資料
見開き内容の導入になる資料と、それに関する問いかけを設けています。

学習課題
この見開きで何を学んでいくのかを示しています。この課題を考えながら、学習を進めていきます。

確認
学習課題に対応し、見開きの学習の理解を確かにする問いを示しています。学習の最後に取り組みことができます。

見方・考え方
学習課題の解決に向けて手がかりになる主な「見方・考え方」の例を示しています。

深めよう
学習課題の理解を深めるため、「見方・考え方」を働かせたりする問いを示しています。

歴史
連携コーナー
小学校の学習や歴史・公民とのつながりを示しています。

インデックス
学習内容を全体のなかに位置づけて学習を進めることができます。

本文
十分な文字量を確保し、平易な表現を用いて、世界や日本の地理的事象を丁寧に説明しています。また、一つの文章の長さを適切なものにするなど、生徒の読み取りを支援するようにしました。

地理+α
見開きの学習内容を掘り下げて、学習内容の理解を深めていくことができるコラムです。

資料活用
資料を用いた活動を示すことで、必要な情報の読み取りなどの技能を高めることができるコーナーです。

▶「見方・考え方」を働かせながら学習を進め、単元を通した「主体的・対話的で深い学び」を実現することができるよう編修しています。

第2編第2章・第3編第3章では、各州で設定した「主題」や各地方で設定した「考察の仕方」をもとに、各節を以下のように構成し、生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現することができるよう編修しています。

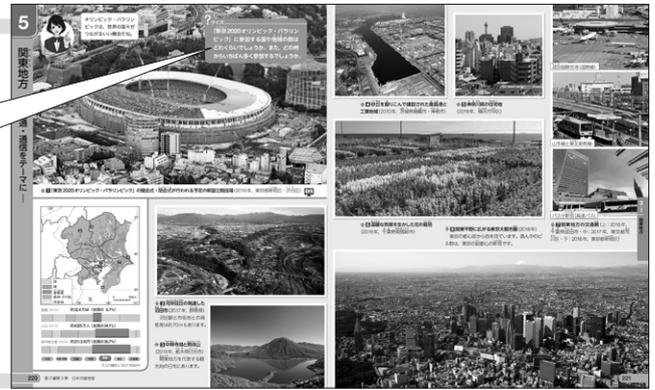
目でとらえる

■ 導入見開き

その節で学習する州や地方の写真を多数掲載しています。また、導入写真とクイズによって、自然にその節の「主題」や「考察の仕方」に焦点化できるように工夫しています。▶ P.220-221

クイズ
[東京2020オリンピック・パラリンピック]に参加する国や地域の数はどれくらいでしょうか。また、どの州からいちばん多く参加するでしょうか。

その節で扱う「主題」や「考察の仕方」にかかわるクイズです。



あらましをつかむ

■ 第1時

各州・各地方の自然環境と人々のかかわりを概観します。それをふまえて、その節で追究する「主題」や「考察の仕方」を設定します。▶ P.222-223

1 関東地方の自然環境と人々のかかわり

関東地方は、7都府県で構成されています。その中で、自然環境や人々の生活が、他の地域と大きく異なる点があります。また、関東地方は、日本の経済活動の中心地として、重要な役割を果たしています。

この節では、関東地方の自然環境と人々の生活のかかわりを概観し、その特徴を学びます。

2 中部地方の自然環境と人々のかかわり

中部地方は、5都府県で構成されています。その中で、自然環境や人々の生活が、他の地域と大きく異なる点があります。また、中部地方は、日本の産業の中心地として、重要な役割を果たしています。

この節では、中部地方の自然環境と人々の生活のかかわりを概観し、その特徴を学びます。

7地方のなかで最も集中しているのに、人口が最も集中しているんだね。ほかの地方や外国にも影響があたえているのではないかな。

宣言コーナー
その節で追究する「主題」や「考察の仕方」の問いの例を示しています。

テーマを追究する

■ 第2時以降

第1時で設定した「主題」や「考察の仕方」にもとづいて、「見方・考え方」を働かせながら学習を進めます。▶ P.224-231

見方・考え方
東京とその周辺の地域は、どのように結びついているのでしょうか。

見方・考え方コーナー
その見開きで働かせたい主な「見方・考え方」の例を示しています。

3 関東地方の自然環境と人々のかかわり

この節では、関東地方の自然環境と人々の生活のかかわりを詳しく学びます。また、その特徴を学びます。

4 中部地方の自然環境と人々のかかわり

この節では、中部地方の自然環境と人々の生活のかかわりを詳しく学びます。また、その特徴を学びます。

ふりかえる

■ 最終見開き

学習をふりかえて知識の定着を図るとともに、単元を通した「主体的・対話的で深い学び」を実現します。▶ P.232-233

オリンピック・パラリンピックからみる東京の変化

東京は、2020年オリンピック・パラリンピックを開催します。その結果、東京は大きく変化するでしょう。

この節では、オリンピック・パラリンピックからみる東京の変化を学びます。

交通・運輸から関東地方をふりかえる

交通・運輸は、関東地方の発展に大きく貢献しています。その特徴を学びます。

この節では、交通・運輸から関東地方を詳しく学びます。

アクティビティコーナー
主体的・対話的な問いや活動、シンキングツールを示すコーナーを設けています。

▶「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、主体的・対話的な問いや活動、地域の将来に向けて構想することができる教材などを設定し、新しい時代を築く社会の参画者を育てるように編修しています。

第3編第4章「地域のあり方」

(P.263-273)

第3編第1章で学習した地域調査の手法や、第3編第2～3章で学習した日本の地域的特色や地域の課題（社会的課題）をふまえて地域のあり方を構想します。



▶P.270-271



チャレンジ地理



具体的な課題を自ら調べたり、クラスで議論したりする活動を通して、学習内容の理解をより深めるためのページを設けました。

▶P.218



アクティビティ

第2編第2章、第3編第3章の各節の最終見開きに適宜設定しています。

▶世界や日本のさまざまな地理的事象をより身近にとらえたり、地理的な技能を身につけたりすることができるページやコーナーを豊富に設け、学習内容の理解を深められるように編修しています。



自由研究

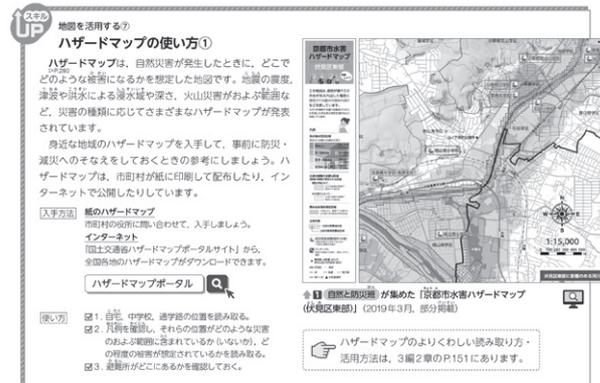


学習内容の理解を助けるための地理的な話題を取り上げる特設ページを設けています。▶P.204



スキルUPコーナー

地理の学習を進めるにあたって必要な技能を、系統立てて習得できるように、詳しく解説しています。



▶P.132



トライコーナー



緯度・経度を手がかりに、地球儀を使って地球上で東京の反対側の地点を探しましょう。

見開きの学習内容を深めるための作業学習を示しています。地理学習の導入として主に第1編に設定し、生徒の関心・意欲を高められるよう配慮しました。

▶P.8

2. 対照表

教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、教科書全体を通して、以下のような配慮をしています。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭	●「地理との出会い ―地理的な見方・考え方って?―」では、地理的な見方・考え方についてイラストと問いを用いながら解説し、地理学習の手立てが身につけられるよう配慮しました。(第1号, 第2号)	P. II～III
第1編 世界と日本の地域構成	●様々な作業学習を行うことで、世界と日本の地域構成を楽しみながら学習することができるようにしました。(第1号, 第2号, 第5号) ●日本の領域についての学習を充実させ、領域保全のための様々な活動を取り上げることで、我が国を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第1号, 第5号)	P.1～22
第2編 世界のさまざまな地域 第1章 世界各地の人々の生活と環境	●世界各地の人々の生活について固定観念をもたせないよう、最新の生活の様子とその変容を取り上げるとともに、人々の生活を紹介する「声コーナー」を設け、多文化共生社会の重要性を認識できるようにしました。(第1号, 第5号)	P.23～42
第2章 世界の諸地域	●人々の生活場面の写真を豊富に掲載し、多文化共生社会の重要性を認識できるようにしました。また、主体的・対話的な問いや活動を提示し、他者の考えを認め、そこから自分の考えを発展させることができるようにしました。(第1号, 第2号, 第3号, 第5号) ●大量消費の生活スタイル、開発と環境保全など、グローバル化する国際社会において、人類全体で取り組まなければならない地球的課題を取り上げました。(第1号～第5号)	P.43～117
第3編 日本のさまざまな地域 第1章 地域調査の手法	●様々な調査方法や調査の具体例の紹介を通して、地域調査の手法を身につけることができるようにしました。(第1号, 第2号, 第5号) ●調査の際には情報の正確性を確認すること、聞き取り調査でマナーを守ることなどを明記しました。(第1号, 第2号, 第3号)	P.118～137
第2章 日本の地域的特色と地域区分	●自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信から日本の地域的特色を学習することを通して、日本を多面的・多角的にとらえられるようにしました。(第1号～第5号)	P.138～162
第3章 日本の諸地域	●人々の生活場面の写真を豊富に掲載し、我が国と郷土を愛する心を育むことができるようにしました。また、主体的・対話的な問いや活動を提示し、他者の考えを認め、そこから自分の考えを発展させることができるようにしました。(第1号, 第2号, 第3号, 第5号) ●過疎地域の活性化、過密問題の解決など、持続可能な社会をつくっていく上で取り組まなければならない地域の課題(社会的課題)を取り上げました。(第1号～第5号)	P.163～262
第4章 地域のあり方	●地域の課題を見出し、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする構想の具体例を紹介することで、社会参画への意欲を喚起するようになりました。(第3号, 第5号)	P.263～273

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

特別支援教育への配慮	●全ての生徒が等しく学べるよう、ルビを全て読みやすいゴシック体にしたほか、図版の配色や体裁にいたるまで、ユニバーサルデザインに配慮した編修を行いました。
防災・安全への配慮	●近年、多発する自然災害に対する防災・減災への備えと、自助・共助・公助の実践を具体化した内容を明記しました。
ICTの活用	●デジタルマーク  を付けた箇所では、ICTを活用して学習を深めることができるよう、弊社Webページにコンテンツを用意しました。
道徳との関連	●道徳の「主として集団や社会との関わりに関すること」のなかでも「社会参画, 公共の精神」「国際理解, 国際貢献」等については各所で取り扱いました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31 - 23	中学校	社会	社会 (地理的分野)	1 - 2年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	地理 704	中学社会 地理的分野		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

新しい時代の主権者を育てる教科書

生徒の確かな成長と国際理解の深まりを願い、地理的な見方・考え方を働かせながら世界や日本を多面的・多角的にとらえ、公民としての資質の基礎を養えるように編修しました。また、生徒が地理の学習を通して自らの成長を実感し、学習を社会に生かし、未来に希望をもって生きていくことができる内容をめざしました。

特色 1 学習指導要領の改訂への対応

①「社会的事象の地理的な見方・考え方」をわかりやすく解説

表見返しで、「地理的な見方・考え方」についてイラストと問いを用いてわかりやすく示すことで、これからの学習を進めていく手立てを身につけられるよう配慮しました。

▼P.Ⅱ-Ⅲ 地理との出会い — 地理的な見方・考え方って? —

地理との出会い — 地理的な見方・考え方って? —

中学校社会科では、どのような学習をするのでしょうか。社会科の学習を進めるにあたって大切なのは、社会的な見方・考え方をはたかせながら学習することです。地理的分野では、社会的な見方・考え方 のなかでも、地理的な見方・考え方を はたかせ、世界や日本のものごとを見ていきます。地理的な見方・考え方は、以下の①～⑤に整理することができます。

それぞれの「見方・考え方」を働かせて考える問いを示しています。

さまざまな地理的事象を盛り込んだイラストです。

① 位置や分布 「それはどこで行われているのか」「それはどのように広がっているのか」を考えるとときに活用します。

② 場所 「そこはどんなところか」を考えて、自然や社会の特色を読み取ることに活用します。

③ 人と自然とのかかわり その地域の自然環境と人々の生活との関係を読み取ることに活用します。

④ 地域どうしのつながり 地域のあいだのさまざまな関係やつながり、競争などを読み取ることに活用します。

⑤ 地域 「このあたりではどんな特色がみられるか」「このあたりではどのような環境で暮らしているか」といった、地域の特色を読み取ることに活用します。

学習 課題 大陸や海洋は、地球上にどのように広がっているのでしょうか。

見方・考え方 位置や分布

地球儀を回してみ、大陸や海洋の広がりやうすのちがいに着目しましょう。

↑P.2

学習 課題 世界の人々は、どのような宗教を信じているのでしょうか。

見方・考え方 場所

主な宗教の分布と、その場所の人々の生活に着目しましょう。

↑P.40

学習 課題 九州地方の人々の生活は、火山活動や雨の多い気候と、どのようにかかわっているのでしょうか。

見方・考え方 人と自然とのかかわり

火山活動や大雨による被害に加えて、火山や気候によるめぐみにも着目しましょう。

↑P.168

学習 課題 東京は、日本のなかや世界のなかで、どのような役割を果たしているのでしょうか。

見方・考え方 地域どうしのつながり

日本の各地方や世界の国々と東京との関係に着目しましょう。

↑P.224

学習 課題 地域のあり方について考えるまちづくり会議を開きましょう。

見方・考え方 地域

地域の課題の変化や持続可能な地域づくりに着目しましょう。

↑P.272

また、本文ページの各見開きで、学習課題とともに、その見開きで主に働かせたい「見方・考え方」の例を示しています。このようにして、地理的分野の学習全体を通して「見方・考え方」を働かせることを促し、地理的事象の理解を深められるようにしました。

② 「地球的課題」と「地域の課題（社会的課題）」の追究ができる構成

第2編第2章「世界の諸地域」と第3編第3章「日本の諸地域」では、その州や地方を学習する中で見出した「地球的課題」や「地域の課題（社会的課題）」を、節末に設定した「チャレンジ地理」や「アクティビティ」などの主体的・対話的な問いや活動によって追究し、単元を通した深い学びを実現します。



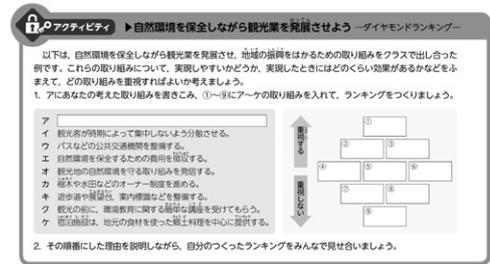
◀ P.68-69 5・6 移民の増加とゆらぐ統合のうごき



◀ P.70 ヨーロッパの大国、イギリスのEU離脱問題を考えよう



◀ P.172-173 4 自然環境を生かした南西諸島の観光業



▶ P.177 自然環境を保全しながら観光業を発展させよう

③ 第3編を通した学習展開を提案

第1章「地域調査の手法」から第4章「地域のあり方」まで、第3編の学習を有機的に結びつけられるように工夫しました。

第1章 地域調査の手法

第2章・第3章で用いる視点をもとに、五つの調査班に分かれて調査を進めます。

- 自然環境… **自然と防災班** は京都市伏見区の水路と防災に注目して調査を進める
- 交通・通信… **交通と観光班** は京都市伏見区の観光客に注目して調査を進める

第2章 日本の地域的特色と地域区分

第1章で調査したテーマに関わる事象が日本全体でどうあられているかを学習します。

- 自然環境…日本全体で地震・火山災害や気象災害が起きていることを学ぶ
- 交通・通信…日本全体で外国人観光客が増えたことや、過密地域では鉄道の混雑や道路の渋滞が深刻化していることを学ぶ

第3章 日本の諸地域

第1章で調査したテーマに関わる事象が日本の各地方でどうあられているかを学習します。

- 自然環境…他地方と同じように近畿地方でも地震災害、気象災害が発生していることを確認する
- 交通・通信…近畿地方で外国人観光客の増加や外国人観光客の誘致が行われていることを学ぶ

第4章 地域のあり方

第4章では、第2章や第3章の学習をふまえて、身近な地域にあらわれている課題が日本全体や日本の各地方でみられたことを確認します。そして地域のあり方を考察・構想し、「まちづくり会議」を開いて構想の議論の結果を発信します。

▶ P.272-273 5 まちづくり会議を開こう



特色2 「主体的・対話的で深い学び」の実現のための工夫

各州・各地方の地域的特色を視覚的にとらえることができる導入の設定

写真を大きく掲載したり、クイズを設定したりすることで、地域的特色を具体的にイメージできるようにし、本文ページの理解を助けることができました。



◀ P.164-165 九州地方導入見開き

この見開きで重要な概念をイラストつきで解説

紙面を大きく使って、地図と写真、イラストを組み合わせることで、本文の理解を助けることができました。

地図と写真を組み合わせる

◀ P.188-189 5 豊かな魅力を生かした地域活性化

特色3 世界や日本の事象を多面的・多角的にとらえることができる豊かな教材

①世界や日本の各地にみられる課題を考えることができる豊富な教材

世界や日本の各地にみられる現代的な諸課題を解説するほか、各地でどのような課題解決への取り組みが行われているかなどを紹介し、生徒自身がこれらの課題について考えられるようにしました。

防災・減災

各所で災害について触れ、詳しく解説するとともに、ハザードマップの使い方を具体的な活動を通して身につけることができる教材を提案しました。

▶ P.150-151 「釜石の奇跡」はなぜ起こったのか／ハザードマップをより深く知り、使うために



伝統と文化

伝統・文化の維持に取り組んでいる事例を豊富に紹介し、生徒の興味・関心を高められるようにしました。

▶ P.196-197 2 現在にいぎづく歴史的都市の特色



環境

世界や日本の各地でみられる環境問題や環境保全の取り組みについて紹介し、持続可能な社会づくりをふまえて、広く環境について考えることができるようにしました。



▶ P.67 国境をこえる環境問題

東京2020オリンピック・パラリンピック

本文ページでの学習をふまえて、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が東京にもたらす変化について考えられる特設ページを設定しました。

▶ P.232 オリンピック・パラリンピックからみる東京の変化



大阪・関西万国博覧会

大阪・関西万博の会場となる「夢洲」周辺の開発のあゆみをみていき、大阪・関西万博に込められた期待や思いを読み取ることができるようにしました。

▶ P.204 大阪・関西万博が開かれる大阪市の湾岸部



②現代的な諸課題を考えることができる主な教材

主な観点	主な内容
人権	手話 (P.39, P.111), 南アフリカ共和国の変化 (P.75), 広がるフェアトレード (P.77), 多様性を認める社会づくりを進めるオセアニア (P.110-111), 日本の先住民族であるアイヌ民族 (P.253) など
環境問題・環境保全, 資源・エネルギー	国境をこえる環境問題 (P.67), 大量生産・大量消費の生活スタイルと持続可能な社会 (P.92-93), 人と環境にやさしい都市づくり (P.101), 地球温暖化を防ぐために (P.104), 工業の変化と自然環境の保全 (P.174-175), 琵琶湖の環境を未来の世代へ (P.197), 風力発電の盛んな東北地方 (P.237) など
平和・命の尊さ	国境をこえた統合のあゆみ (P.62-63), アフリカの紛争と私たち (P.80), 沖縄の基地と人々の生活 (P.173), 平和記念都市・広島市 (P.183) など
防災・減災	ハザードマップの使い方① (P.132), 災害にそなえるために (P.148-149), 「釜石の奇跡」はなぜ起こったのか (P.150), ハザードマップをより深く知り, 使うために (P.151), 巨大地震にそなえる過疎地域の取り組み (P.190), 都市問題の解決に向けて (P.230-231), 震災からの復興と災害に強い地域づくり (P.244-245) など
伝統と文化	現在にいきづく歴史的都市の特色 (P.196-197), 伝統を生かした産業と世界進出 (P.200-201), 伝統産業の新たな取り組み (P.215), 伝統文化の維持と革新 (P.240-241) など

本教科書の特徴表

基本事項	準拠性	教育基本法の遵守	・教育基本法第2条の「教育の目標」を達成するため, 同条第1項から第5項に示されるような人格の育成をめざした教科書としました。
		学習指導要領の遵守	・学習指導要領の社会科の目標, 各分野の目標・内容・内容の取扱いをふまえた適切な教材を選択した単元構成としました。
	公正性	・教材の選定, 記述にあたっては, 一面的, 断定的な見解に偏っていないか, 広く受容されているかを十分に吟味, 検証しました。	
	正確性	・検定基準に照らして正確な内容, 表記・表現であることを検証しています。また, 資料についても正確でかつ最新の資料を選択しました。	
内容・系統性	発達の段階への配慮 (小・中・高連携)		・生徒の発達段階を考慮した内容とし, 小学校の振り返りや, 歴史・公民との分野間連携を意識しました。
	配列・分量		・配列は, 第1編「世界と日本の地域構成」, 第2編「世界のさまざまな地域」, 第3編「日本のさまざまな地域」で構成し, 103時間の授業時数で完結できるよう各編の内容を吟味しました。 ・教科書の中心となる本文は, 見開き2ページを1授業時間とすることを原則に, ①導入資料→②「学習課題」→③「見方・考え方」→④「深めよう」→⑤「確認」を基本構造とし, この流れをくり返し学習することによって, 基礎・基本の確かな定着と思考力, 判断力, 表現力を育成することができるようにしました。
	主体的・対話的で深い学びの実現		・第2編第2章, 第3編第3章の各節末に, その節で学習したことを生かして生徒が自分で考えたり対話したりする具体的な問いや活動を提示する「チャレンジ地理」や「アクティビティ」を設置しました。 ・4人の生徒と2人の先生が様々な場面で登場し, 疑問や感想, 提案等の発言を通して, 学習者である生徒が同じ目線で感じたり, 疑問をもったりできるように工夫しました。
	社会に開かれた教育課程・カリキュラムマネジメントの実現		・第3編第1章・第4章では, 地域調査の手法や構想の具体例を示しながら, 学校毎の生徒の姿や地域の実情に合わせた学習ができるように配慮しました。 ・他教科との関連では, 道徳科の教育目標に基づき, 自然愛護や伝統・文化をテーマに据えた「自由研究」, 「アクティビティ」, 「地理+α」などの特設ページやコーナーを設置し, 内容の充実を図りました。
	重点課題	現代的・社会的課題への対応	・第3編第2章・第3章では地震・火山災害, 気象災害, 防災・減災 (自助・共助・公助) について詳しく学習するページを設け, 生徒が日常生活の中で普段から防災対策を行うことができるようにしました。また, 環境問題や環境保全, 持続可能な社会づくり, 伝統・文化について扱う「地理+α」を各所に設置しました。
		伝統文化の尊重と国際理解	・世界各地の伝統・文化を紹介することで多文化共生社会の大切さを知り, 国際社会の平和と発展に寄与する態度が養えるように配慮しました。 ・「東京2020オリンピック・パラリンピック」及び2025年開催の「大阪・関西万国博覧会」を取り上げ, 国際理解・親善への生徒の興味・関心を促すようにしています。
社会の持続可能な発展		・第2編第2章・第3編第3章では各地域の地球的課題及び地域の課題 (社会的課題) を扱うことで, 環境・貧困・平等の問題, 経済や社会の発展を調和の下に進めていくことが必要であることを理解し, 追究することができるように配慮しました。	

その他	家庭学習への配慮	・見開きに「学習課題」、「見方・考え方」、「深めよう」、「確認」を設置し、生徒が家庭にいる時でも学習しやすいように配慮しました。
	地域・社会への関心	・「自由研究」や「地理+α」などの特設ページ・コラムを設置し、地域・社会の地理的な話題について興味・関心を高められるよう配慮しました。 ・第3編第1章・第4章では、地域調査の手法や構想の具体例を示しながら、生徒が身近な地域に対して地理的な興味・関心を高められるように配慮しました。
	デジタル教材の活用	・学習を深めるデジタル教材を弊社 Web ページに用意しました。
	特別支援教育・ユニバーサルデザインへの配慮	・文字はユニバーサルデザインに配慮したフォント、ルビも判読しやすいゴシック体を使用しました。グラフ・地図等の図版は、CUD に配慮した配色や処理を施しています。
	判型	・AB判を採用し、写真等の図版を大きく示して、生徒の興味・関心をひきやすくし、左右のスペースにグラフや各種資料を掲載して本文内容の補完の充実を図りました。
	印刷・製本	・印刷は植物油インキを使用、本文用紙も再生紙を使用して環境に配慮しました。 ・十分な強度をもち、軽くて裏写りが少ない特徴はそのままに、前回（平成28年度版）の教科書と比較して約5%軽い用紙を使用して、教科書の軽量化を図りました。 ・製本は、堅牢なあじろ綴じを採用し、開きやすくしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
地理との出会い ―地理的な見方・考え方って?― 地理を学ぶにあたって	A～C	P.Ⅱ～Ⅲ P.Ⅷ	1
第1編 世界と日本の地域構成	A(1)	P.1～22	10
第2編 第1章 世界各地の人々の生活と環境	B(1)	P.23～42	8
第2編 第2章 世界の諸地域	B(2)	P.43～117	26
1 アジア州 ―人口や経済発展をテーマに― ※章導入ページを含む	B(2)	P.43～57	(5)
2 ヨーロッパ州 ―国境をこえた統合をテーマに― ※チャレンジ地理を含む	B(2)	P.58～71	(6)
3 アフリカ州 ―自立のための開発と国際協力をテーマに―	B(2)	P.72～81	(3)
4 北アメリカ州 ―世界に影響をあたえる産業をテーマに― ※チャレンジ地理を含む	B(2)	P.82～95	(6)
5 南アメリカ州 ―開発と環境保全をテーマに―	B(2)	P.96～105	(3)
6 オセアニア州 ―多文化が共生する社会をテーマに― ※「世界の諸地域をふりかえろう」を含む	B(2)	P.106～117	(3)
第3編 第1章 地域調査の手法 ―京都市伏見区を例に―	C(1)	P.118～137	7
第3編 第2章 日本の地域的特色と地域区分	C(2)	P.138～162	10
第3編 第3章 日本の諸地域	C(3)	P.163～262	36
1 九州地方 ―自然環境をテーマに― ※章導入ページを含む	C(3)	P.163～177	(5)
2 中国・四国地方 ―人口や都市・村落をテーマに―	C(3)	P.178～191	(5)
3 近畿地方 ―歴史的背景をテーマに―	C(3)	P.192～205	(5)
4 中部地方 ―産業をテーマに― ※チャレンジ地理を含む	C(3)	P.206～219	(6)
5 関東地方 ―交通・通信をテーマに―	C(3)	P.220～233	(5)
6 東北地方 ―持続可能な社会づくりをテーマに―	C(3)	P.234～247	(5)
7 北海道地方 ―自然環境をテーマに― ※「日本の諸地域をふりかえろう」を含む	C(3)	P.248～262	(5)
第3編 第4章 地域のあり方 ―京都市を例に―	C(4)	P.263～273	5
※「チャレンジ地理」には、1時間を配当しています。 ※予備時間は、学校や生徒の実態に即して弾力的に扱っていただくための時間です。		合計	103

(※予備時間:12時間)